

2021年 CIVL 総会レポート

日程：2021年2月1日～3日15:00～17:00 (UTC+1)：各部会

2月4日～7日15:00～17:00 (UTC+1)：総会

場所：全てリモート (ZOOM ミーティング)

総会参加国：オーストラリア、オーストリア、ブラジル、ブルガリア、中華人民共和国、クロアチア、デンマーク、スペイン、フィンランド、フランス、英国、ドイツ、香港、ハンガリー、インド、イラン、イタリア、カザフスタン、ラトビア、リトアニア、マレーシア、北マケドニア、モンゴル、オランダ、ノルウェー、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ロシア、スロベニア、セルビア、スイス、スウェーデン、タイ、台湾、トルコ、米国。委任ニュージーランド⇒オーストラリア。

報告：岡芳樹、牟田園明

FAI 関連

逼迫した財政を立て直すため、職員を10人から7人に減らし、あらゆる無駄を省くなりしてコストカットを実現している。2020年の総会で会長が交代。引き続き FAI の原点である、大会、記録、表彰に焦点を当て、各委員会 (ASC)、NAC、外郭団体との緊密なコミュニケーションを通してスカイスポーツをさらに発展させるよう努力する。

CIVL 関連

1) コロナの影響でほとんどの大会がキャンセルあるいは延期となった。2020年の公認大会は130であった(2019年は326)。唯一開催できたカテ1大会はブラジルで開催された第4回 PGXC パンアメリカン選手権。

2) 2015年設立された AFA (AirSports Federation of Asia、FAI 承認団体、FAI のアジアの会員がメンバーとなっている) は PG アキュラシーリーグを開催してゆく方針で CIVL のサポートを打診している。ルール作成を含めサポートしてゆく。

3) CIVL の財政は2020年はコロナの影響で収入が減少したがソフトウェア関連の支出がほぼ予定通りとなり収支は約500万円のマイナス。2021年もコロナによりほぼ同じような傾向との予測で

収支は約460万円のマイナス試算。2022年にはコロナは収束していると予想し、このスポーツを発展させ、かつパイロットに資するための支出は行うとして収支は約370万円のマイナスと試算。それでもこれまでの繰り越し資産（2020年末時点で約2700万円）があるので、財政的に破綻することはないが、毎年バランスが赤字と言うわけにも行かず、公認料の値上げも検討しなければならないであろう。

HG/PG 関連

1) ブルガリアからの提案 (Annexe33b) : 主に安全性を高めるために、ターンポイント（特に ESS）にシリンダー半径だけでなくクリアーするための最低高度を設定する提案。このような方式は実機のグライダーではすでに採用されているとのこと。コンセプトは全会一致で賛同されたが、実際の運用にあたっては種々の問題があるので作業部会を設置して、協議し今年の大会で試行して問題を解決して来年の総会で再提案することとなった。

2) ポーランドからの提案 (Annexe33d) : F A I 公認大会におけるトラックログを C I V L のサーバーに保存し、分析するために閲覧できるようにする提案。ログを分析するようなアプリを作成することは、それなりに費用と時間がかかるので、それはせずただ単にログを保存するだけとして、賛成多数で承認された。F S ではスコアラーがログを CIVL 事務局に送る必要があるが、Air Score（後述する F S の後継ソフト）はクラウドサービスのため、自動的にログが CIVL サーバー上に保存される。

3) F S の後継となる Air Score はほぼ完成しており、実際にイタリアの大会では使用されている。これまでいくつかの大会での F S と Air Score の結果を比較しているが、差はわずか（1000点満点で1, 2点程度）。今後広汎に比較精査する予定。スケジュールとしては2月中に F A I のサーバーに公開され（無料）、バグを修正して5月1日から稼働させる予定。

4) ソフトウェア作業部会からの提案 (Annexe30) :

一人の選手が複数のペナルティを犯した（ボーナスを得た）場合に、どの順序でペナルティを課す（ボーナスを与える）（計算する）のか。

* HGでは1番目にジャンプザガン（フライング）、2番目にパーセントペナルティ（ボーナス）、3番目に点数ペナルティ（ボーナス）

* P Gでは1 番目にパーセントペナルティ（ボーナス）、2 番目に点数ペナルティ（ボーナス）

これは、変更ではなく、ただ単に明確に文章にただけ。

H G X C 関連

1) 2 0 2 1 年クラス1 世界選手権：Krushevo、北マケドニア。クラス5 と併催に変更。全体での参加選手枠は130 人（クラス1:105 人、クラス5：25 人）。チームサイズはクラス1：6 人、クラス5：3 人。開催の最終的な判断は5/1 に下される。

2) 2 0 2 3 年クラス1 世界選手権：Ager（バルセロナの北西約1 4 0 k m）,スペイン。本戦2 0 2 3 年7 月1 6～2 9 日（テスト大会2 0 2 2 年7 月1 6～2 3 日）。エントリー費5 0 0 ユーロ（選手）2 0 0 ユーロ（役員）

P G X C 関連

1) ポルトガルによる提案（Annexe33c）：直線距離およびゴール宣言直線距離記録にフットランチによるものを新設する提案。当初 H G も含めてのものであったが、最終的に P G のみに修正して提案されたが必要な賛同（有効投票の2 / 3）が得られず（賛成2 4，反対1 4）否承認となった。

2) プルガリアの提案（Annexe33a）：タスクによってリーディングポイントとタイムポイントの比重を変えられるようにする（現在、リーディングウエイトは1 0 0 0 点満点中の1 6 2 点で固定）提案。しかしながら総会前の部会で、現実にはどのようなタスクであったら比重をどのように配分すれば選手の納得が得られるか、全く分からないのでベースキャンプ（FAI 内にあるチャットシステム）で継続的に協議し、来年の総会に再提案することで行き止まりになった。

3) 2 0 2 3 年世界選手権：Andradas（サンパウロの北約1 6 0 k m）,ブラジル。本戦2 0 2 3 年9 月4～1 6 日（テスト大会2 0 2 2 年9 月3～1 0 日）。参加枠1 5 0 人。エントリー費4 8 0 ユーロ（選手）、2 4 0 ユーロ（役員）

P G A 関連

1) P G A 部会からの提案（Annexe27）：アキュラシーのルール S 7 C を少々改訂する案。

主な改訂点

* 第2章に2. 6が追加されカテ2大会に対しても大会参加資格としてカテ1同様I P P Iパラプロ4（あるいは同等の国内ライセンス）所持。トーイング大会では国内トーイングライセンス、あるいはトーイング訓練修了証明書、あるいはトーイングによるFAI公認大会に参加した証明書を所持。強風および無風時のテイクオフ技術を持っていること。が追加された

* 3. 2. 2. 3（ファイナルラウンド）項に、ファイナルラウンドはその時点でのランキングの逆順でフライトすることになっているが、万が一そのファイナルラウンドが完了しなかった場合は、逆順でフライトしなかったその直前のラウンドがファイナルラウンドとなることの明確化。

* 3. 5（リランチ）項、現在リランチの決定をイベントジャッジが15分遅らせることが出来るとなっているところをチーフジャッジあるいはイベントジャッジとチーフジャッジを追加する。

* 3. 5. 5（リランチの基となる事項としての外部からの妨害）項に、選手はターゲットを狙わずに、その旨の明確なサインをすることになっているが、ターゲットを避けるほどの高度がなかった場合でも明確なサインはしなければならないことを追加。

* 3. 5. 6（リランチの基となる事項としてのジャッジの判断）項の異常なコンディションとしてダストデビルによる乱気流を追加。

* 5. 1（大会の有効性）項にカテ2大会では最低1ラウンドが成立していなければならないを追加。

* 5. 4. 2（自動計測装置—パッド）項において、パッドが故障あるいはリセットされていない場合で選手の着地点がパッド上であった場合…との文言に、あるいはパッドを踏む圧力が不十分であった場合を追加

* 6章（ペナルティ）はカテ2にも適用されるようになった。

* 7. 2（プロテスト）項の最終ラウンドのプロテストはコンプレインの結果を伝達されてから1時間以内に提出することとなっていたが、これを最後の2ラウンドに変更。また7章（コンプレインおよびプロテスト）はカテ2にも適用されることとなった。

* 8. 3. 1（使用可能なハーネス）項、LTF09あるいはEN1651-2018の認証を取得していることとなっていたものを、LTF09あるいはEN1651-2017に改められた。

* 9. 5（ジャッジの経験）項のカテ2ジャッジの経験でこれまでは過去2年間のFAI公認大会での経

験となっていたところを過去3年間に変更。またターゲットジャッジに関しては過去2年間に国内ジャッジ訓練に参加していることとなっていたのを過去3年間に変更し、かつ過去3年間にターゲットジャッジの経験があることを追加。

*またカテ2大会に対しても9.6(各ジャッジおよび記録係の仕事),9.7(テイクオフディレクターと風速監視係の仕事),9.8(ジャッジおよび役員に必要な装備)は要求されることとなった。

2)2023年世界選手権:Sopot(ソフィアの東約120km),ブルガリア。本戦2023年10月20~28日(テスト大会2022年10月27~30日)。参加枠130人。エントリー費270ユーロ(選手)、100ユーロ(役員)

その他

1)2021年に予定されている各競技の世界選手権(フランスでのPGXC、北マケドニアでのHGクラス1&5、北マケドニアでのPGアキュラシー)に関して:コロナの影響で、開催が延期となった場合、その時点で今回開催の承認を得た2023年世界選手権は自動的に白紙に戻り、再度立候補をすることとする。

2)FAIスポーツメダルを、これまでの功績と、特に第4回PGXCパンアメリカン選手権(ブラジル)を成功裏に開催したフランク・ブラウンとマルコ・オウレリオ・ピネイロに授与する。

3)役員選挙(すべての役職に複数候補がいなかったため信任投票となり全員信任された)

会長:Stephane Malbos(フランス 再選)

副会長:Goran Dimiskovski(北マケドニア 再選)

副会長:Igor Erzen(スロベニア 再選)

副会長:Zeljko Ovuka(セルビア 再選)

副会長:Jamie Shelden(米国 再選)

事務局:Andy Cowley(英国 新任)

会計:William Hughes(米国 新任)

HGX C委員長:Jami Shelden(米国 再選)

P G X C委員長:Goran Dimiskovski(北マケドニア 再選)

P G アキュラシー委員長：Martin Jovanoski（北マケドニア 新任）

P G アクロバット委員長：Claudio Cattaneo（スイス 再選）

4) 次回総会はセルビアのベオグラードで2月3～6日の日程で開催されることとなった。が、決定後、リモートあるいはハイブリッド（実際の会議とリモートでの参加も可能とする）での開催が出来ないかとの議論が出たが結論に至らず、セルビアと理事会で協議することとなった。